

要約

水稻V溝乾田直播栽培をこれまで以上に普及・定着させるため、現地に実証・展示圃を設置し、情報の発信を行いました。

研究成果の概要

1 背景・目的

水田農業は本県農業の基幹であり、農業政策の転換や米価の下落などに対応できる最新技術の普及が急務となっています。

そこで、農業者の高齢化や担い手不足などに対応できる大規模水田営農栽培技術として開発した水稻V溝乾田直播栽培をこれまで以上に普及・定着させるため、県内4か所（青森市、板柳町、七戸町、田舎館村）の生産現場に実証・展示圃場を設けて、情報発信を行いました。



水稻V溝播種機での播種作業

播種床造成別にみた播種までの作業体系

区分	播種床造成から播種までの作業の流れ			
	稲わら処理	整地	播種	
①秋耕起・春代かき	10月～11月1 耕起(すき込み) ロータリー	1月～4月上旬 代かき 代かき機	4月 (乾燥固結)	4月下旬～5月中旬 播種 不耕起V溝播種機
②秋耕起・春代かき無し	同上	-	-	同上
③耕起・代かき無し	10月又は4月 稲わら収集 ロールベアラー等	-	-	同上
④播種前浅耕、代かき無し	(状況に応じて稲わら収集)	-	4月 耕起 ロータリー	同上
⑤播種前耕起、代かき無し、鎮圧	(状況に応じて稲わら収集)	4月 耕起 ロータリー等	4月 鎮圧 K型ローラー等	同上

2 内容

実証・展示圃場では、播種床の造成法について、基本技術の①のほか、地域の実情に合わせて②～⑤でも実施可能であることを明らかにしました。

- ①秋に耕起し、春に代かきをする場合
- ②秋に耕起し、春に代かきをしない場合
- ③全く耕起、代かきをしない場合
- ④播種前に浅く耕起するが、代かきをしない場合
- ⑤播種前に耕起するが、代かきをしないで、鎮圧（踏み固める）をする場合

3 活用等

- ・平成25年度に作成された「水稻V溝乾田直播栽培マニュアル」を補完する情報として活用されています。
- ・普及面積は、40ha（H26）から374ha（R1）に拡大しました。

関連情報

- ・平成24～25年度の現地実証では、慣行の移植栽培と同等の収量を確保しつつ、労働時間を慣行の1/3以下、生産コストを慣行の70%に低減できることを確認しました。
- ・現在、経営規模拡大に対応した雑草防除技術の開発に取り組んでいます。